

世界遺産登録に向けて

推薦書の素案の作成は、3年前の平成15年から始まりました。文化庁よりその作業を委ねられた島根県教育委員会の担当者を中心におき、旧市町の担当者も加わった検討を行いました。

しかし、「世界遺産」という舞台で求められるハードルは大変高いものでした。

その一つが「顕著で普遍的な価値があること」を示すことでした。県市町共同で平成8年から実施している総合調査の成果が作業のベースとなりましたが、「世界の中で他には例のない固有の価値」を示さねばなりません。これは、類似資産の登録を抑制し、今後は様々な分野の価値を持つたものを登録していくこうとする方針が示されたことによります。



スウェーデンのファールンの大銅山地域(2001年登録)



銀山開発初期の露頭堀り跡 (銀山柵内)

今回は、世界遺産推薦書を作成してきた経過と、今後の課題について紹介します。

いよいよ世界遺産登録へ

石見銀山を世界遺産に登録するための推薦書が、昨年暮れの12月28日、文化庁よりユネスコの世界遺産センターへ提出され、年明けの1月4日、正式に受理されました。

わが国が推薦した資産の名称は、『石見銀山遺跡とその文化的景観』です。今後、イコモス(国際記念物遺跡会議)の書類審査と現地調査を経て、来年夏頃に開催される世界遺産委員会で正式に世界遺産として登録される予定です。



◆推薦書一式
『石見銀山遺跡と
その文化的景観』
(The Iwami Ginzan Silver Mine
and its Cultural Landscape)

今後の課題

この比較の過程で、500年を迎えたようとしている石見銀山の歴史は、変化しながらも良好なかたちで連綿と続いてきたことを知ることができます。

しかし、現在の姿ではその価値を理解し、体感することは難しいことが課題です。生活されている住民の方と協力しながら完全な保存管理を行い、一方で来訪者の理解を助ける遺跡の整備や情報発信などを順次実施していくこととしています。



明治期の製錬所（銀山柵内）

ひとくちメモ

◆ユネスコ

ユネスコ(UNESCO)は、国際連合教育科学文化機関といい、本部はパリにあります。現加盟国は191カ国(2005年3月現在)。日本は1951年に60番目の加盟国となりました。加盟各国内にはユネスコ国内委員会が設置され、日本では文部科学省内に『日本ユネスコ国内委員会』が置かれ、民間ユネスコ活動とともに官民一体となった活動を繰り広げています。主な活動として識字率の向上や、義務教育の普及、図書館の推進、世界遺産の登録と保護などを行っています。

◆イコモス

イコモス (ICOMOS) は、世界各国に小委員会をもつユネスコの諮問機関で、文化遺産の保存・修復に関する研究を行う非政府組織です。主な活動として『世界遺産』候補地の調査及び評価を行い、世界遺産委員会に協力しています。

特集 “石見銀山”

重要文化財『熊谷家住宅』

熊谷家住宅は、大田市大森町にあります。熊谷家は商業である鉱山業や酒造業とともに代官所の御用達、幕府直轄領である石見銀山御料の支配を担う郷宿、年貢銀を計量する掛屋、大森町の町年寄の任にあたるなど御料内で届指の商家でした。

熊谷家住宅は平成10年に国の重要文化財に指定され、平成13年に所有者から市へ土地・家財とともに寄附されました。大田市は熊谷家住宅の保存活用を進めるため、同年12月から保存修理工事に着手しました。熊谷家住宅（主屋・土蔵5棟）を復原する工事は、約4年の歳月と大工・左官など職人さん延べ約1万8千人が携わった大がかりな工事になりました。



修理前 平成13年度 熊谷家住宅全景



工事中 平成16年度 熊谷家住宅全景



平成18年に竣工した熊谷家住宅全景

幕末から明治初年の姿へ

平成14年に入ると、工事用の仮設物の設置や建物内部の半解体を始め、同年夏には主屋を仮設屋根でおおい、本格的に解体工事を始めました。この解体工事は材料に刻まれた痕跡を丹念に調べ、増改築のうつり変わりを調査する重要な工事です。熊谷家の住宅は寛政12年（1800）、町並みの大半を焼失する大火後、享和元年（1801）に建立されましたが、この調査により建立から現在までの変遷をほぼつきとめることができます。

いつの年代に復原するかについては建物の調査をして古文書・資料図・古写真などの史料調査、地下遺構の確認調査を加えて総合的な考察を繰り返し行い、文化財としての価値を高めることができるので、復原を行います。

こうした調査と考察を経て熊谷家住宅は屋敷の景観が整った幕末から明治初年の姿に復原することとなりました。平成15年夏から始まった復原工事は、平成17年8月に主屋・土蔵5棟の工事を完了し、現在は展示に関する整備工事を行っています。保存修理工事に対する市民の皆さんのがんばりは高く、工事期間中に行つた現場公開には、延べ約5千人の見学者を迎えることができました。

官民組織による活用方針

工事と並行して保存活用策の検討を行い、市民から寄せられた意見を参考に、くらしと歴史の「保存」・子どもたちに伝えていく「教育」・文化財に親しむ「活用」、これらを市民の手ですすめ、具体的な活用は官民による運営組織が中心になり、ボランティアによる活動を展開していくこ



復原した熊谷家住宅の正面



復原した熊谷家住宅の内部(台所)

石見銀山御料で最も栄えた商家『熊谷家住宅』 4月22日より一般公開開始まる

この方針には工事期間中を活用の準備期間とし、活用の試行を行うこととも盛り込まれており、昨年12月19日には学校教育における活用を進めるための実験を大森小学校4年生の協力で行い、今年1月9日には大森町民の協力により一度にどれくらいの見学者を迎えることができるのか試験公開を行いました。

今年4月22日、一般公開を始めます。幕末、石見銀山御料で最も栄えた商家の住まいがよみがえります。